

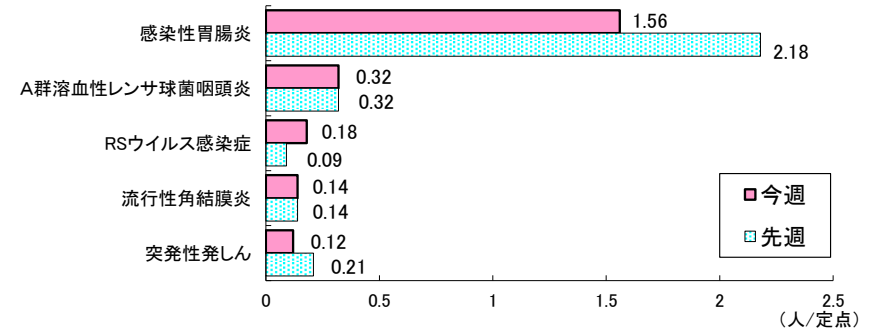


【第12週の発生動向】

< 定点把握対象疾患(週報)・前週比 >

1. 感染性胃腸炎は、県全体で28%減少しています。保健所別では、秋田中央、大仙で増加、大館で同規模、秋田市、北秋田、能代、由利本荘、湯沢で減少しています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で同規模です。保健所別では、秋田市、大館、北秋田で増加、横手で同規模、秋田中央、大仙で減少しています。
3. RSウイルス感染症は、県全体で2.0倍に増加しています。保健所別では、秋田市で増加しています。

秋田県の定点医療機関における主要5疾患の発生規模



発生報告

< 五類定点対象疾患(週報) >

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第11週	第12週	増減	第11週	第12週	増減	第11週	第12週	増減	第11週	第12週	増減	第11週	第12週	増減	第11週	第12週	増減	第11週	第12週	増減	第11週	第12週	増減	第11週	第12週	増減			
RSウイルス感染症	0.09	0.18	↗	0.43	0.86	↗																								
インフルエンザ																														
咽頭結膜熱	0.12		↘	0.29		↘	0.25		↘												0.25		↘							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.32	0.32		0.14	0.29	↗		0.25	↗		0.50	↗				1.50	1.25	↘			0.75	0.25	↘	0.33	0.33					
感染性胃腸炎	2.18	1.56	↘	4.57	3.14	↘	0.25	0.25		1.00		↘	8.00	5.67	↘	1.50	1.75	↗	0.75		↘	0.50	1.00	↗			1.33	0.67	↘	
水痘	0.15	0.03	↘					0.25	↗										0.25		↘	0.50		↘			0.67		↘	
手足口病																														
伝染性紅斑	0.03		↘																								0.33		↘	
突発性発しん	0.21	0.12	↘	1.00	0.43	↘																								
ヘルパンギーナ																														
流行性耳下腺炎																														
川崎病																														
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*									*	*			
流行性角結膜炎	0.14	0.14		0.33		↘				*	*		*	*		*	*		1.00	↗						*	*			
細菌性髄膜炎																*	*													
無菌性髄膜炎																*	*													
マイコプラズマ肺炎																*	*													
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																*	*													
感染性胃腸炎 (ロタウイルスによるもの)																*	*													

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。
 「*」印は、当該疾病に関する定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

・五類感染症の水痘(入院例に限る)が大館保健所管内から1人、報告されました。
・新型コロナウイルス感染症が秋田市保健所管内から678人、大館保健所管内から176人、北秋田保健所管内から15人、能代保健所管内から74人、秋田中央保健所管内から166人、由利本荘保健所管内から49人、大仙保健所管内から308人、横手保健所管内から43人、湯沢保健所管内から44人、報告されました。

<全数把握疾患>

Table with 4 columns: 類型, 疾患名, 1週-11週 (全国, 秋田), 12週 (秋田). Lists various infectious diseases and their counts.

Table with 4 columns: 類型, 疾患名, 1週-11週 (全国, 秋田), 12週 (秋田). Lists various infectious diseases and their counts.

トピック

<流行性耳下腺炎について>

流行性耳下腺炎は一般的に「おたふくかぜ」として知られ、幼児～小学校低学年くらいまでの小児が多く発症します。近年の定点あたり患者報告数は低い値で推移していますが、4～5年間で流行をくり返す傾向があります(図)。特に夏の間は保育園や幼稚園で集団感染が起こりやすくなることから、今後の発生動向に注意しましょう。

■感染経路・症状

原因となるのはムンプスウイルスで、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むこと(飛沫感染)や、唾液の付着した手や食器などが口や鼻に触れること(接触感染)で感染します。感染から2～3週間の潜伏期間の後、突然の発熱、両側あるいは片側の耳下腺などの唾液腺に腫れと痛みが起こります。通常は1～2週間で軽快しますが、無菌性髄膜炎、脳症、難聴、肺炎などを合併する場合があります。思春期以降に感染した場合、男性では精巣炎、女性では卵巣炎を併発することもあります。

■予防

感染予防には予防接種が有効です。現在、おたふくかぜワクチンは任意接種で1歳から受けることができます。予防接種により流行性耳下腺炎の発症を防ぐことで、合併症である無菌性髄膜炎なども起こりにくくなることから、1歳になったらできるだけ早くワクチン接種をすることが推奨されています。

※予防接種に関するご相談は、お住まいの市町村、かかりつけの医療機関などにお問い合わせください。

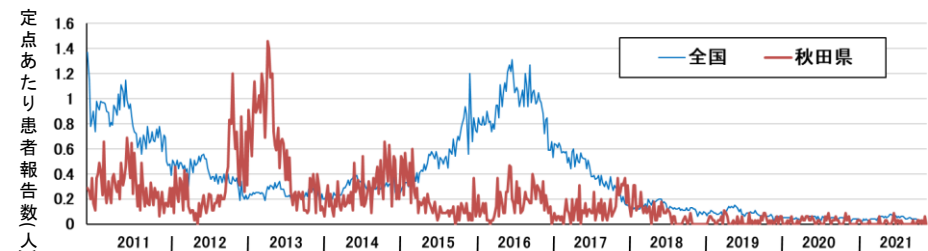


図 流行性耳下腺炎の定点あたり患者報告数の推移(2011年～2021年)

感染症の集団発生報告

かぜ様症状の集団発生報告が1件ありました。

Table with 6 columns: 所在地, 施設名, 報告日, 有症者数 (利用者, 職員, 計), 把握期間, 症状. Details a case of influenza-like illness at a nursery school.



【注意報・警報の発生状況】

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
注意報・警報はありません。		

■ 注意報・警報の定義

【注意報・警報の定義】

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報		警報		対象疾患	注意報		警報	
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)	対象疾患		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)	
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1		
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2		
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1		
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4		
手足口病	-	5	2						

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		